

アミカペットクリニック活動通信

Vol.6 H30.5.7

日本獣医師会雑誌に論文が掲載されました！

当院で過去に実施したウサギの麻酔に関する論文が、
日本獣医師会雑誌 4月号に掲載されました。

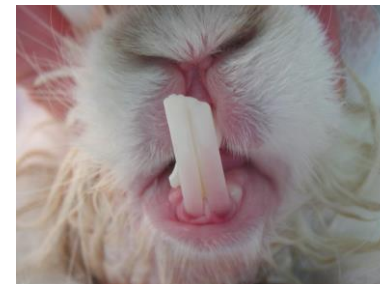
『ウサギの不正咬合処置時の麻酔回数が回復時間に及ぼす影響』 大成表子ら

ウサギの不正咬合処置時には麻酔が必要となります。繰り返す咬合異常に対し頻回の麻酔を実施した場合に、回復時間（処置後に麻酔から覚めるまでの時間）への影響がないか、検討しました。

この結果、麻酔の回数は術後の回復時間に影響を与えず、加齢による影響の方が大きいことが推察されました。

不正咬合処置ってなに??

下の写真のように歯が異常に伸びたり削れたりしてしまうと、口の開閉困難、舌の損傷による痛みといった理由から食欲不振・廃絶を呈します。
この場合、麻酔下での歯の切削処置が必要となります。



切歯の過剰伸長



臼歯の棘状突起



短報

ウサギの不正咬合処置時の麻酔回数が回復時間に及ぼす影響

大成表子 小川祐生 八村寿恵 山本誠也
鐘ヶ江晋也 網本昭輝†

山口県 関業（アミカペットクリニック：〒755-0023 宇部市恩田町3-2-3）
(2017年2月23日受付・2018年1月15日受理)

要約

ウサギの不正咬合では、臼歯の棘の切削処置のために頻回の麻酔が必要となる個体があり、頻回麻酔の影響が懸念されている。今回、当院で歯科処置のために1個体当たり39～103回の頻回の麻酔を実施したウサギ11例について、麻酔回数及び年齢に対する回復時間について検討を行った（頻回麻酔群）。また、頻回麻酔群に含まれない同様の歯科処置を行ったウサギ67例について、初回麻酔時に同様の項目について調査を行った（コントロール群）。頻回麻酔群では、麻酔回数と回復時間に相関がほとんどなかった。一方、加齢に伴い回復時間が有意に延長し、コントロール群でも同様の結果が得られた。同群の同じ年齢区分の比較で有意差はなかった。したがって、歯科処置などの侵襲の少くなく、短時間の麻酔では頻回麻酔の影響よりも、加齢に伴う影響の方が大きいと推察された。

——キーワード：麻酔回数、不正咬合、ウサギ。

日獣会誌 71, 189～192 (2018)